2022年12月号

ＦＰまつもと通信

ちょっと得する「お金」や「資産形成」についての話題をお届けします。

ご挨拶

早いもので今年もあとわずかです。皆さんにとって2022年はどのような年でしたか？

2月には北京で冬季オリンピックが開催されました。日本は冬季では最多の18個のメダルを獲得、昨年の東京オリンピックに続き日本選手の活躍には元気づけられましたね。

しかしながらオリンピック直後にはロシアによるウクライナ侵攻、10月には一時1ドル150円台になる急激な円安、そして物価高、と2022年は波乱の年だったように思います。

来年は落ち着いた良い年になると良いですね。

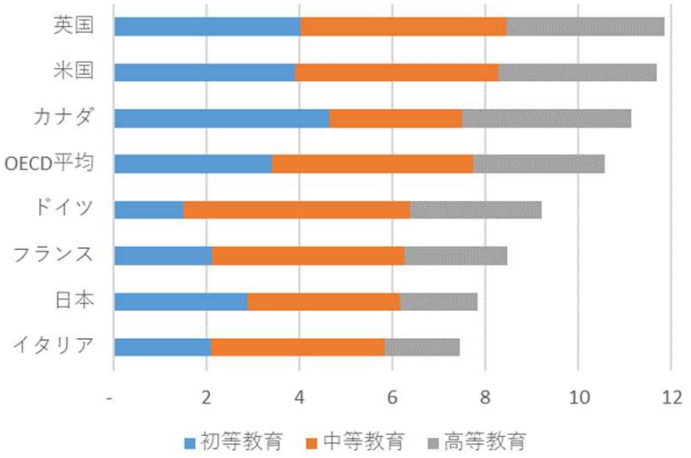
今月号のちょっと気になるお金のコラム

今月は宝くじを買おうと思っている人も多いかもしれませんね。ところで1等が当たる確率は何％ぐらいかご存じですか？

大きい大学費用負担

OECDは10月、「Education at a Glance（図表でみる教育2022）」を公表しました。

下図はG7各国の政府支出に対する公的な教育支出の割合です（OECD報告書データより作成）。OECD平均10.5％に対して日本は7.8％とかなり少なくなっていることがわかります。そのため特に高等教育段階では私費負担の割合が高くなっています。



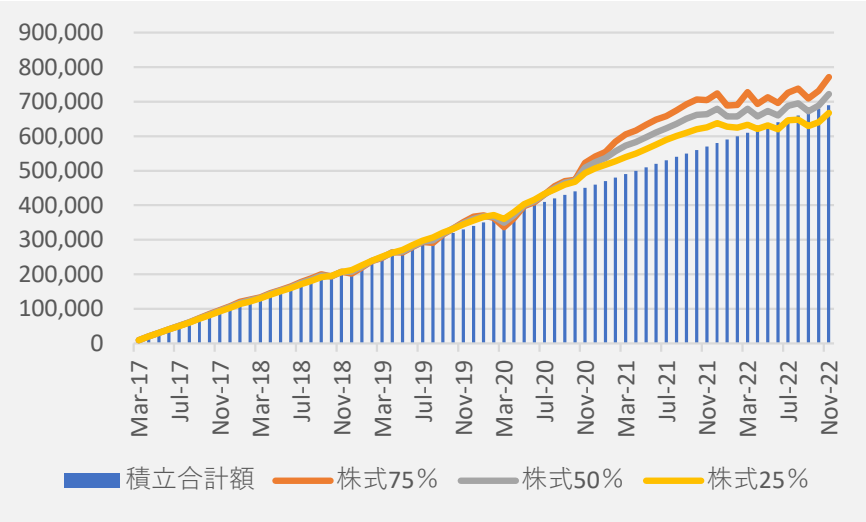
そんな中、奨学金を利用する学生も増えていますが、300万円を超える借金を抱えて社会人になる事への不安も大きいようです。今年に入り「出世払い型奨学金」制度について議論されているのもこのようなことが背景にあるからです。

親の負担は勿論、将来の子どもの負担を少なくするためにも早い時期からの準備が大切になりますね。

ＦＰ松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之
〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250
090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
https://fp-matsumoto.com

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。
国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすくて、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2022年9月末	670,000	708,725	672,322	629,484
2022年10月末	680,000	731,035	688,330	640,386
2022年11月末	690,000	771,601	722,565	668,055

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分
積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合
積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

	日経平均		NYダウ		ドル円
9月末	25,937.21	-7.67%	28,725.51	-8.84%	144.73
10月末	27,587.46	6.36%	32,732.95	13.95%	148.71
11月末	27,968.99	1.38%	34,589.77	5.67%	137.75

11月も上昇

11月も株式市場は上昇しました。

11月30日に米国中央銀行のパウエル議長が「利上げペースを落とす時期は早ければ12月の会合になる可能性がある」と発言したことで、米長期金利が大幅に低下したことを好感、NYダウ平均株価は30日に737ドル高となりました。

為替相場も10月には一時150円台を付けましたが米国金利の上昇ペースの鈍化をうけ137円台まで円高になりました。

しかしながら、インフレや利上げの最終到達点はいまだ不透明です。さらにこれまでの利上げが米国景気に及ぼす影響も懸念されています。

12月のFRBでの利上げが予想を上回ったり、予想の範囲内だったりすると失望から値下がりすることも想定しておいた方が良いかもしれません。

依然として、インフレとそれに伴う金利上昇、ウクライナ情勢などが懸念材料ですが長期の積立投資では日々の値動きと値動きを解説するニュースに惑わされずに積立を継続することが大切です。

当コラムは、商品選択の考え方、価格変動やニュースなどにどう対応するべきかについての一つの考え方をお伝えするもので、特定の運用商品、運営管理機関を推奨するものではありません。また、特定の商品の将来のパフォーマンスを約束するものでないことをご理解の上、ご覧ください。記載の情報（税制・社会保障制度・金融商品・マーケット・価格情報等）は発行日時点での情報に基づくもので将来は変更になることもあります。数値は公表されているデータに基づき当社にて計算・加工をしていますが、正確性を保証するものではありません。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

今年の金融市場は大波乱でした。

昨年末36338ドルだったNYダウ平均株価は9月には28725ドルまで約20％下落、為替相場は10月には一時150円を付ける大幅に円安になりました。原油も70ドル台からロシアのウクライナ侵攻により3月には121ドルになりました。

このようにマーケットが大きく動くと長期の目標を見失いがちになりますよね。年末年始には少しまとまった時間を取って目的や目標、そして現在位置を確認してはいかがでしょうか？

下図は当シミュレーション株式75％型の2022年11月までの推移を表しています。緑棒は今までの積立累計で69万円、赤線は評価額で約77万円です。グレー線は年率5％（株式比率75％の場合、期待リターンは概ね5％程度）で運用できた場合のラインです。

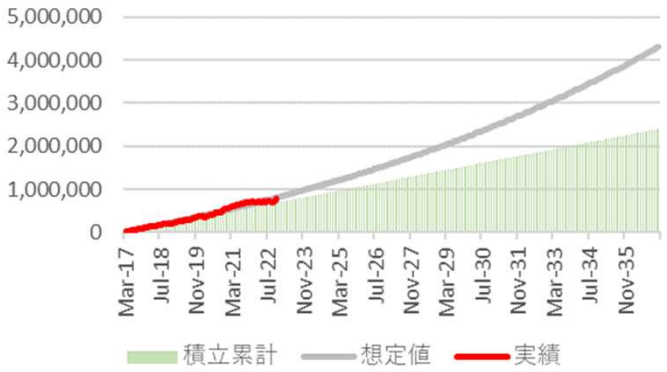
5％ライン（グレー：80万円）に対し実績ライン（赤）がやや下回っています。

2020年のコロナショックの時は大きく下回り、コロナからの回復期には上回っていました。

上回っていると嬉しくなり、下回っていると不安になったりします。

5％ライン（グレー）どころか元本（緑）を下回ってくると、「良かった時に利益確定しておけばよかったかもしれない」とか「このままもっと下がっていくのではないか」と不安になることもあるかもしれませんね。

同じグラフの期間を20年に延ばすと下図のようになります。



20年間の積立元本240万円（緑）が5％で増えていくと430万円（グレー）に、赤は現在地、69万円が77万円になっているところです。

先ほどのグラフと合わせてみると実績（赤）は5％ライン（グレー）の上に行ったり下に行ったりしながら進んでいるように見えます。日々の値動きやそれを解説するニュースなどを聞くと心配になることもあるかもしれませんが概ね予定通り進んでいることが確認できますね。

方向性の確認ができたところで、もちろん家計やライフプランの状況を確認したうえで、増額の検討をしてみましょう。

また、もし積立期間が長くあるにもかかわらず株式型でない商品に積立をしている場合は、株式型に変更することも検討しましょう。

老後に向けての準備はこれ以外にも、生命保険や厚生年金・国民年金などもあると思います。

年末年始には、積立投資は勿論、生命保険、公的年金、などの現在地を確認し、このまま継続すると将来いくらぐらいになるのか、を確認してはいかがでしょうか？

ちょっと気になるお金のコラム

宝くじの起源

12月には宝くじを購入する人もいるかもしれませんね。

日本における宝くじの発祥は箕面（大阪府）の龍安寺と言われています。正月に参詣した人が、自分の名前を書いた木札を唐びつの中に入れ、それを寺僧がキリで3回突き、3人の“当せん者”を選び、福運の“お守り”を授けたのが起こりと言われています（宝くじ公式サイトより引用）。

宝くじが当たる確率は

今年の年末ジャンボ宝くじの1等は7億円です。当たったら何に使おうか、と夢が膨らみますね。では1等が当たる確率は何％ぐらいでしょうか？

宝くじ公式サイトによると今年の販売枚数は1ユニット2000万枚、上限23ユニットのようです。下表はユニット当たりの当選額と当選本数です。

等級等	当せん金	本数	
1等	700,000,000	1	700,000,000
1等の前後賞	150,000,000	2	300,000,000
1等の組違い賞	100,000	199	19,900,000
2等	10,000,000	4	40,000,000
3等	1,000,000	40	40,000,000
4等	50,000	2,000	100,000,000
5等	10,000	60,000	600,000,000
6等	3,000	200,000	600,000,000
7等	300	2,000,000	600,000,000
当せん金合計			2,999,900,000

つまり1等が当たる確率は、1／2000万、0.00000005％です。ちなみに飛行機が墜落する確率は0.0009%程度だそうです。

2000万枚買えばすべての当せん金をもらうことができます。当せん金の合計は2,999,900,000円、購入額の合計は60億円（300円×2000万枚）と購入額の約半分しか戻ってきません（ここから経費を引いた金額が様々な事業に使われます）。

7億円という大きなお金を得ることができるという夢がある一方、300円で買った宝くじは買った瞬間に確率的には半値になると思うと少し冷めてくる人もいるかもしれませんね。

高額当選した人だけがもらえるもの

高額当選した人は当選金のほかに「【その日】から読む本」という冊子が配布されます。

- 当せん証明書の発行を依頼しておく
- 後悔するような軽はずみな言動に注意する
- 当せん直後は、興奮状態にあるという自覚を
- 興奮の後に訪れる不安は、以前の自分に戻るための通過点
- ひとりでも人に話せば、うわさが広まるのは覚悟しよう

このような、突然大きなお金を手にした人特有の項目以外に

- 住宅、教育、老後で必要なお金を考える
- 贈与税について知っておく
- もしもの時のために遺言状を作る

などの項目も記載されているそうです。なぜか生命保険を考える時と同じような項目ですね。

宝くじに当たった人も当たらなかった人も、年末年始には、将来のお金の使い道などについて考えてみてはいかがでしょうか？